
君と私の三つの約束

氷城 水蓮佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と私の三つの約束

【Nコード】

N4158P

【作者名】

氷城 水蓮佳

【あらすじ】

病気の少女水蓮佳だけである日いつものように両親と散歩していたら少年翔がパンを食べているけどのどを詰まらせてしまった!?!?。。。。。

プロローグ（前書き）

恋愛なんですから感動作にしてみました！
よろしく願います！

プロローグ

私は病気・・・・・・・・。。

先生には「がん」と言われた。

私はまだ15歳まだまだ世界を見ていない。

恋もしてない。友達も出来ていない。

私は病気のせいで学校に行っていない。

両親は私を気遣っているけどそれが

辛かった。両親が無理して私と接してる事を・・・・・・・・。

私は辛い、寂しい、悔しいなんで私だけが。

私は後一年も生きれない体。

だから家にこもってる。

私はだんだんボロボロの体になっている

だから歩く事が出来ない。

だからいつも車椅子だった。

けどある日・・・・・・・・。。

あの人にあってから私は変わった。

プロローグ（後書き）

1話もよろしくね！

第一話（前書き）

1話ですぞぞ！

滯佳がお父さんに慌てて言った。

「君大丈夫！？ほら水」

お父さんはいつも滯佳のために水を持ち歩いて散歩している。

「ゲホゲホッ・・・どうもすいません。」

少年はお父さんにお礼を言った。

「大丈夫へー今度からは気をつけてくださいねへーへ」

滯佳は笑顔で笑って少年に言った。

「でどうでして一気にパンを食べたんだい？」

お父さんが少年に聞いた。

「あっえっとお腹空いてははジュース買うの忘れてましたすいません。」

少年がお父さんに謝った。

「ねえ、名前教えてへーへ私は滯佳よろしくねへーへ」

滯佳が笑顔で言った。

「俺は翔よろしくって腹減った」

翔がパンを食べたばかりなのにそんな事を言い出した。

「ねえ、私の家で夜ご飯でも食べていけない？翔君」

滯佳がたずねた。

「いいのか？俺行っても？」

翔が尋ねた。

「うん！いいよね！お父さん？へーへ」

滯佳がお父さんに問いかけた。

「うん！滯佳が決めていいぞへーへ」

お父さんは優しく滯佳に言った。

「ありがとうへーへ行こう！翔君」

滯佳とお父さんと翔は滯佳の家に行った。

第一話（後書き）

次回もよろしく！

第二話（前書き）

2話です！
どうぞ！

第二話

バクバクッ

「翔君いっぱい食べてるへーへ」

滯佳は笑っている。

「滯佳の家の飯美味い!？」

翔は滯佳の家でご飯を食べていた
今白ご飯を15杯食べたところだった。

「ふうゝ食ったゝ」

翔はお腹を叩きながら言った。

「って滯佳はあんまり食べないのか？」

翔は不思議そうに滯佳にたずねた。

「私は翔君より少食なんですへーへ」

滯佳は笑顔で言った。

「じゃあ何で車椅子？」

翔が次々に質問してくる。

「私は病気なんだ。それもがん・・・一年生きれるかなんだ。」

滯佳は箸を止めた言った

「あっ・・・ごめん。」

翔は滯佳に謝った。

「いいよへーへ大丈夫だからへーへ」

滯佳は笑顔で言った。

「私ね一ヶ月に一回しか外に出れないのだから今日が待ち遠しかったへーへ」

滯佳はちよつと無理して笑顔を作ってるように翔は思った。

「さあ！滯佳もう寝る時間だぞ」

お父さんが滯佳に言った。

「あっうんへーへ」

滯佳は翔にあいさつして部屋に行った。

だけど翔は座っていた。

「滯佳はがん何だ・・もう何年も奇跡的に生きているのになぜが今は滯佳を」

失ってしまう気がするんだよ。」

お父さんが言った。

「えっ・・なんでおじさんが滯佳の事信じてやら無いと!?!?」

翔が必死でお父さんをかばった。

「翔君ありがとう。」

翔はお父さんにおいさつして家に帰った。

〓次の日〓

ピーンポーン

「あの・・滯佳いますか?」

翔が滯佳の家を訪ねてきた。

「あのおじさん滯佳外に今日だけでいいんで出れますか!?!?」

翔はどけ座してお願いしてる。

「分かった・・・どうか滯佳を頼みます。」

お父さんに頼まれた翔。

「お外だお外!」

滯佳は元気で空を見ていた。

「ねえ、翔君三つの約束してくれる?」

滯佳が後ろを向いて言った。

「ん? 何だ?」

翔が聞いた。

「私がもしも一年過ぎて生きてたら私と付き合ってくれる?」

滯佳が言った。

「えっ〓〓〓〓〓お前が俺でいいなら〓〓〓俺は別に〓〓〓〓〓」

翔が照れながら滯佳に言った。

「じゃあ二つ目私と翔君が付き合って私が生きてたらどっかに連れて行ってくれる・?」

滯佳が翔の方を見た。

「分かったよどこでも連れて行ってやる！」

翔が大声で言った。

「三つ目はね・・・私が・・・もしも死んだら・・・手紙・・・書いてくれる・・・？」

滯佳が暗い声で言った。

「滯佳・・・大丈夫だから・・・分かった・・・絶対手紙を・・・書くからな。」

翔が不安な顔で言った。

「はあ・・・はあ・・・ゲホッゲホッ・・・はあ・・・。」

滯佳が気絶した。

「おい！滯佳！おい！おい！！！！！」

第二話（後書き）

次回最終回！

早くてすいません！

最終回（前書き）

感動の最終回です！

どうぞ！

（書いてる途中に泣くかもWW）

最終回

漣佳は病院に入ってきてすぐ手術室に運ばれた。

「漣佳！？漣佳！」

翔は漣佳の名前を呼んだ。

何時間後に手術室から漣佳が運ばれた。

翔は漣佳の病室に行った。

だけど病院の先生に呼び止められてしまった。

「全力は尽くしたんですが後一ヶ月生きれるか生きられないか……」

先生は暗い声で言った。

「えっ……！？」

翔の頭の中は混乱状態になった。

翔が病室に戻ると漣佳はまだ寝ていた。

「……ごめんな……漣佳……」

翔は漣佳に謝った。

だけど漣佳は目を覚まさなかった。

（二週間後）

漣佳はまだ目を覚まさなかった。

「漣佳……お前に手紙書いてる……」

翔は漣佳に言った。

「漣佳一回でもいいから目を覚ませよ……」

翔が悲しそうな声で言った。

パチッ

「翔君？……」

漣佳が目を覚ました。

「漣佳！？」

翔は驚いた。

「翔君……私ね……翔君と……会えて……良かった……」

今まで・・・何にも・・・した事・・・なかったから・・・
けどね・・・翔君に・・・会えて・・・。」

漣佳が一生懸命話してる。

「漣佳・・・。」

翔の目から涙が落ちた。

「翔君に・・・会えて・・・恋を・・・して・・・」

翔君・・・今まで・・・ありが・・・とう・・・

翔君・・・。」

漣佳が最後に何かをボソツと言った。

「漣佳!？」

漣佳は目を閉じたままそのまま目を覚まさなかった。

（5年後）

「漣佳俺今でもお前が好きだからな・・・だから手紙を一生懸命書いてるよ・・・」

お前元気でやってるか?・・・俺は元気だぞ。」

翔が漣佳の墓の前で言った。

「ありがとう・・・漣佳・・・。」

翔が漣佳の墓からとうざかっていくと

「翔君・・・ありがとう・・・。」

「!??・・・漣佳・・・どういたしまして・・・。」

一瞬翔には漣佳の声が聞こえたから返事を返した。

「翔君・・・好き・・・だったよ・・・。」

おわり

最終回（後書き）

最終回まで見てくれてありがとうございます！
他の小説も読んでくださいね！
よろしくね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4158p/>

君と私の三つの約束

2010年12月10日23時56分発行